

猫車⑦

- (1) 「ニヤオーン」「おのれ怪猫・かくご」と、侍は刀をぬいて怪猫にむかっていきますが、
- (2) 「ガーッ」「あッ、ウーン」とびかかられてノド笛をかみきられて、この侍もサイゴをとげました。
- (3) 「ガオー、ニヤオーン。善吉さんをころした悪侍は、お千代孝七さんにかわって私がみなごろしにしてやるのだー」
- (4) 「ニヤオーン、ガガー」怪猫は、宙をとんで立ち去つてしましました。このウワサは侍のあいだにひろがつて、
- (5) 「城下の町におそろしい怪猫の娘があらわれるそうだ」「侍とみればかみつくそしだが、キミがわるいのう」「(と)にかくトノのお耳にいれておこう」
- (6) アバレモノのトノサマの大月ゲンバに、ケライが怪猫のことを話しました。「何、毎夜あらわれてケライ共をころすといいうのか」「ハツ、さようでござります」
- (7) 「おのれにつくき怪猫め。この大月の城下にあらわれるとはフテキなやつ。よしつ、一同これから毎バン町へ出て怪猫をさがし出してたいじせよ」
- (8) トノサマのいいつけだから仕方がない。ケライたちは三三五五と町へ出て、怪猫をさがしていきます。「キミがわるいのう」「ニヤオー」
- (9) 「おッ、ネコのナキゴエがしたぞ…。はてな、いよいよ出るかな」「よ、よせやい。おどかすなよ。オレは犬はスキだが猫が大キレイだよ」「ニヤオーン」
- (10) 「わッ、出た。まっくろくろのくろねこだ」「(と)、こいつ化けるかなー」「ニヤゴー」果して